

2020年度

赤十字 ユース委員会

Profile of
Japanese Red Cross
Youth Committee

2020

CONTENTS

- 01 赤十字ユース委員会の概要
- 02 2020年度のプロジェクト概要及び主な活動内容

01 赤十字ユース委員会の概要

OUR MISSION

日本赤十字社 ユースボランティア の活性化

の実現のため、私たちは
世界のユースと日本のユースのパイプ役を務め、
全国の日赤ユースと協力しながら
日赤ユースの課題解決に向けて活動を行います

赤十字ユース委員会は、日本の赤十字ボランティアの活性化を
目的に、2016年8月に設立されました。

2009年のユース宣言*を契機に、ユースの赤十字運動への参画
促進の機運が世界中で高まりました。2013年以降の国際赤十
字・赤新月社連盟総会には、各社ユースの出席枠が設けられ、
組織の意思決定に参加するだけでなく、また「ユースの活動参
画に関する戦略（Youth Engagement Strategy、通称YES）」
が総会にて承認されたことで、ますます若いボランティアへの
関心が高まりました。

そうした世界的な流れを受け、日本国内でも若いボランティア
の赤十字運動への参画促進が行われるようになります。

これまで職員主体で企画・運営されていたイベントや事業に、
ボランティアが関わった事例も見られるようになりました。ま
た「常任理事会」「全国支部事務局長会議」「支部担当者会議」
といった会議にて、ユースを取り巻く状況について報告し、さ
らにユースの声・想いを直接伝える機会も作られるようになり
ました。日本国内のユースボランティアに関心が高まると同時
に、私たちを取り巻く環境の課題も明らかになりました。また
世界のユースとのパイプの弱さも課題として捉えられるよう
になります。そうした国内の課題やボランティア間のニーズに対
応したチームを設立する必要性が高まったことが「赤十字ユ
ース委員会」の立ち上げの始まりでした。

*ユース宣言…赤十字誕生のきっかけとなったソルフェリーノの戦いから150年を記念して、イタリア・ソルフェリーノに世界149ヶ国の赤十字・
赤新月社から約500人のユースが一堂に会し、世界ユース会議が開催された。会議の締めくくりとして、「ユースが地域社会をより
よくするために取り組むこと」と「各国赤十字・赤新月社や国際社会からの理解や支援を求めること」をユースが宣言したもの

guideline
活動指針

活動の指針として

「ユースの活動参画に関する戦略
Youth Engagement Strategy (Y.E.S)」
を取り上げ、その実現を目指しています

2013年に国際赤十字・赤新月社連盟総会にて承認された本戦略には3つの柱（1 ボランティアとしてのユース、2 リーダーとしてのユース、3 受益者としてのユース）にそれぞれ項目が並んでいます。それらを実現することで、ユースが活性化されると言われており、本戦略は世界中で方針づくりの礎として位置付けられはじめています。

policy
活動方針

ボランティアと職員の協働により、
「改善」だけでなく
「良いイノベーション」を起こしていく

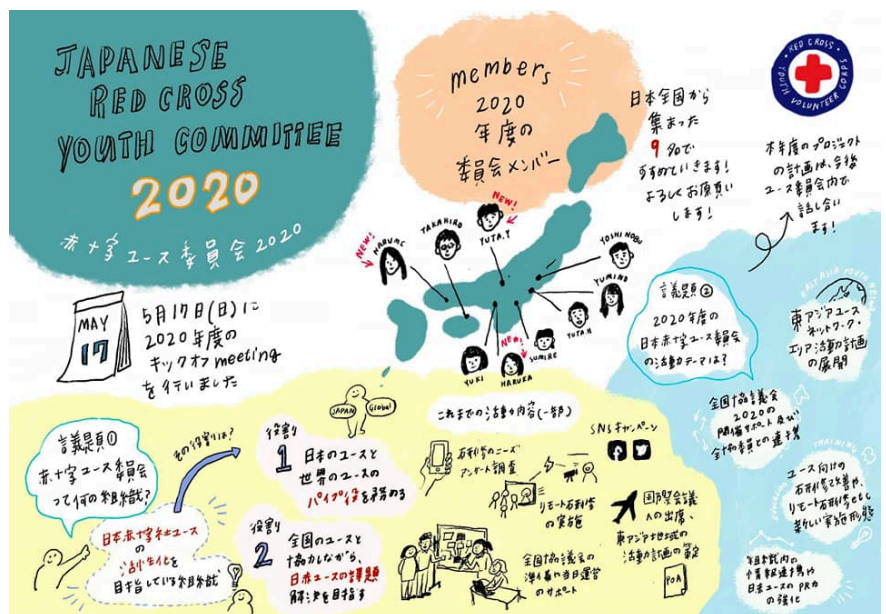
その実現のために、会議や活動はボランティア・職員が協働し行っています。両者が「想い」「意見」「アイデア」を持ち、分かち合い、良い変化を起こすことを日頃から意識しています。また活動の成果として「課題が解決される」「改善される」に留まらず、ボランティア活性化に向けた前向きな変革を目指しています。

members
メンバー

赤十字ユース委員会には、全国から集まった約10名のメンバーで構成されています



→
赤十字ユース委員会は、年2回の全体会と、毎月の定例会を行っています。現在は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、全ての会議をオンラインで行っています。



projects
活動内容

2020年度は、4つのプロジェクトを軸に活動を行っています。
メンバーは1~2つのプロジェクトの主担当として活動を行います。

日赤ユースの
活性化

東アジアユースネットワーク
/ PoA推進

- ・グローバルなイベントやキャンペーンの日赤ユースの参加度を向上させ、国際的なネットワークの強化につなげる
- ・東アジアユースネットワークの実施計画について、国内のユースと協力して推進し、EAYNの存在や、実施計画についての認知度を向上させる

協議会

全ての全協委員が協力して活動できるようサポートし、毎年進化できる協議会にしていく

研修

研修を通して、ユース全体の知識・技術の向上を図り活動を活性化させる。また、研修活動を通し学び合いを深めることで日赤ユースの連携強化に取り組む

「あゆみ」/ 情報共有

あゆみへのアクセス数増加およびリクルート活動への効果的な導入を実現する

プロジェクトの目的・目標

プロジェクトとしてのアクションプラン

全協委員による
キャンペーン実施
のサポート

グローバルな
イベントやキャンペーン情
報の日本語で整理・発信

次年度委員に
向けた引継ぎ
のサポート

研修に関する
情報共有

あゆみの
利用促進・認知度向上
のためのキャンペーン

グローバルな会議へ日赤
ボランティア代表として、
参加、内容の共有

あゆみの更新

国際赤十字・赤新月社連盟
からの調査依頼の対応

全協委員による
キャンペーン実施
のサポート

防災・減災
リーフレットの
作成

〈その他新型コロナウイルス
感染症に関連した活動〉

日赤ユース会議の企画・開催

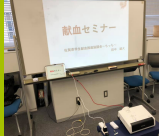
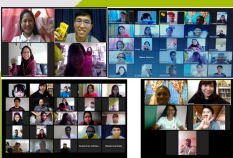


東アジアユース
ネットワークの実施計画
(PoA)2020-2022の推進

活動しやすい
環境づくり

各種ツール
運用のサポート

#みんなで乗り越える キャンペーン
・Instagramビンゴ
・#KeepClappingビデオ 他



リモート研修*の
実施・検証

*遠方の拠点をインター
ネットて結び、音声・画面
を通して研修を行う仕組み

プロジェクトの背景・現状の課題

- ・グローバルな取決めや動向に関する情報連携ができていない
- ・グローバルなキャンペーンやイベントへの日赤メンバーの参加率が低い

- ・年間通してモチベーション維持や、継続した活動実施が難しい
- ・各種資料の作成、WEBの運用が困難なため、とりまとめができていない
- ・毎年委員が変わるため、全協委員間において引継ぎについてサポートが必要

- ・研修に対するニーズはあるが開催に至れない研修がある
- ・全国の研修について現状を知る機会が少ないため学び合いが難しい

更新後のあゆみについて、
認知度アップや奉仕団の発
信力強化へのサポートが不
足している